

各セッションのポイント

下記ポイントを事前に確認した上で、発表に向けた準備を行ってください。

I. 探究成果プレゼンテーション

- (1) SDGs の 17Goals のうち、何に該当するテーマなのかが具体的に示されている
- (2) [応募可能な探究活動の内容] (オ) ~ (キ) のいずれか (複数も可) に該当する
- (3) 当該テーマを選定した理由として、自分たちとの関わりが示されている
- (4) 当該テーマについて、先行研究では何が明らかにされてきたのかが示されている
- (5) どのようなデータを収集したのかが示されている
- (6) どのような方法でデータを分析したのかが示されている
- (7) 研究の結果、何が明らかになったのかが考察されている
- (8) 探究した結果を英語で適切に表現している (英語発表のみ)

II. 探究成果ポスタープレゼンテーション

- (1) SDGs の 17Goals のうち、何に該当するテーマなのかが具体的に示されている
- (2) 当該テーマを選定した理由として、自分たちとの関わりが示されている
- (3) [応募可能な探究活動の内容] (オ) ~ (キ) のいずれかに該当する
- (4) 探究活動としてのどのようなことを行ったのかが示されている
- (5) 研究した内容に基づき、自分 (たち) の当該テーマに関する提言が明示されている
- (6) 探究した結果を英語で適切に表現している (英語発表のみ)

III. ラウンドテーブル型ディスカッション

自分の意見を述べる際には、次の点に留意してください。

- (1) 主張とその根拠を明確にされている
- (2) 根拠となるデータや情報が示されている

データ・情報の信憑性を確認すること。例えば、匿名の電子掲示板に投稿された書き込みやブログの内容に書いてある情報を根拠にすることはできません。また、記名であったとしても、個人の考えや想いを「一般的な事実」の根拠として用いる事もできません。例えば、公的機関によって公表されたデータや学术论文など、信憑性の高いデータや情報を用いてください。

(3) 根拠と主張をつなぐ「論拠」を意識すること

例えば、「ある店でアメを 100 円で売っている」という根拠に基づいて、「その値段設定は高い」という主張をするとしましょう。しかし、それが本当に高いと言えるかどうかはわかりません。人によっては安いと覚えることがあるかもしれません。この場合、根拠と主張のつながりが正しいことを示すためには、例えば、「他の店はすべて 100 円よりも安い値段で売っている」（だから 100 円という値段設定は高いと言える）という情報が必要になります。こうした情報を「論拠」と呼びます。

(4) 他の参加者の意見に質問や提案をする場合も、その意見の主張、根拠、論拠のどれに対する内容なのか、相手に分かるように行ってください。

(5) 議論の進め方、主張、根拠、論拠の関係性については、例えば以下の文献などが参考となります。

・『議論のレッスン（生活人新書）』福澤一吉(著)

議論のグローバルスタンダードの一つである”トールミン”モデルが分かり易く説明されています。議論のルールの主役である『主張、根拠、論拠』の関係が、実例にそって示されているので、議論の中であなたが建設的な役割を果たすためのスキルを身につけるのに役立ちます。

・『議論のルール（NHK ブックス）』福澤一吉(著)

【ラウンドテーブル型ディスカッションの役割について】

本番実施の際、ディスカッション開始時にグループ内で「司会」、「発表者」、「書記」、「タイムキーパー」などの役割を決めて頂きますが、担当する役割に有利不利は一切生じません

以上